

(ご参考)

**マツダ株式会社**  
**2022年3月期 第2四半期 決算発表**  
**主な質疑応答**

**1. 上期の実績を総括してほしい。**

2022年3月期上期のグローバル販売台数は、66万台となりました。継続するコロナ禍での取引先様の工場のロックダウンや逼迫する半導体の部品供給不足により、想定を上回る減産の影響を受けましたが、米国など販売が好調な市場への供給を優先し、グローバル在庫の効率化と最大活用を進め、リーンな在庫による販売/収益の最大化に取り組みました。

連結売上高は1兆4,959億円、営業利益は397億円、親会社株主に帰属する当期純利益は239億円となりました。営業利益は、コロナ禍の影響を大きく受けた前年同期の赤字529億円から黒字に回復し、コロナ禍以前の2020年3月期上期との比較では、減産に伴う出荷台数14万1千台の減少や、原材料価格・半導体コストの高騰などの減益影響がありましたが、販売の質的改善やコスト改善、固定費の効率化などにより139億円の増益を達成しました。厳しい環境下ながら、収益体質は大きく改善し、損益分岐点も大きく下がっています。構造改革の進展と改善の積み重ねにより、収益基盤が強化され、厳しい経営環境の中でも確実に収益を確保できる体質に変わりつつあると評価しています。

**2. 今期の半導体不足による減産影響はどのくらいか。また影響はいつまで続くともっているか。**

今期は、半導体を中心とした部品調達問題により、想定を上回る大幅な減産となっています。連結出荷台数は期初見通しに対し約10万台減少する見通しです。期初の生産10万台、出荷7万台の影響見通しに対し、現時点では、出荷17万台の影響を見込んでいます。半導体マーケット全体で需給が逼迫しており、当面は不安定な状況が続くと認識しており、具体的な解消時期は見通し難しい状況です。部品調達問題に起因する度重なる減産に伴い、世界中の多くのお客さまに納車をお待ちいただいております。大変申し訳なく思います。一日でも早くお届けできるよう、あらゆる手段を講じながら対応してまいります。

**3. 通期の営業利益見通し650億円を据え置いた理由を説明してほしい。また、事業リスクについてどのようなリスクを想定しているのか教えてほしい。**

外部環境の悪化は、期初に想定した以上に拡大しました。通期の連結出荷台数は、減産影響により期初公表から10万5千台の減少の103万台の計画で、売上高は減収の見通しです。また、依然として不透明な半導体など部品調達環境を鑑みた事業リスクを折り込んでおり、原材料価格や半導体コストの高騰の影響もあります。これらの悪化要因に対し、販売費用の抑制/ミックス改善など販売の質的改善や、変動費の改善、固定費の効率化など、収益基盤強化の取り組みを推進し、悪化要因をオフセットする計画です。今後の環境変化に対し、生産/販売/在庫の週次でのモニターを継続し、慎重に見極めていきます。

以上